

**目の前で起きた母の脳梗塞・  
救急車が来るまでの  
緊急対応がその後の後遺症  
を軽減したケース**

---

**日本ホメオパシーセンター旭川永山  
JPHMA認定ホメオパス NO.818  
安藤 玲(あんどうあき)**

クライアント： 76歳 女性

---

**【主訴】**

うっ血性の心不全が原因の  
左側頭部の脳梗塞の後遺症

## 【経緯】

- ・母はワクチン未接種者。
- ・新型コロナワクチンのシェディングの影響  
→2022年5月うっ血性心不全で心臓と肺に水が溜まり呼吸困難。救急車で救急搬送、入院。  
搬送中に心筋梗塞も発症。  
→医師から救急車の中か病院に処置室の中で心筋梗塞になったと言われる。
- ・2022年10月左側側頭部の脳梗塞で救急車で救急搬送、入院。

これは私(ホメオパス)と母のケース



**私の目の前でこんなことが  
起きました**

## 【症状・状況】

自宅で顔を洗おうとした瞬間に起きた脳梗塞

- ①突然動けなくなる
- ②自分では歩くこともままならない
- ③話している事は理解できるけど自分では言葉が出ず話せない
- ④右腕が上がらない動かない



慌てて椅子に座らせ、レメディ―の砂糖玉を母の口へ何度もリピート

## 【緊急対応と選択理由】(2022年10月1日)

### ①心身のショックに

Acon.(ヨウシュトリカブト)30C

### ②血栓が溶けるように

Arn.(ウサギギク)30C

+Lach.(ブッシュマスター)30C

+Am-c.(炭酸アンモニウム)6C

### ③右側の麻痺

Crot-h.(ガラガラヘビ)6C

### ④脳梗塞の広がりを防ぐ

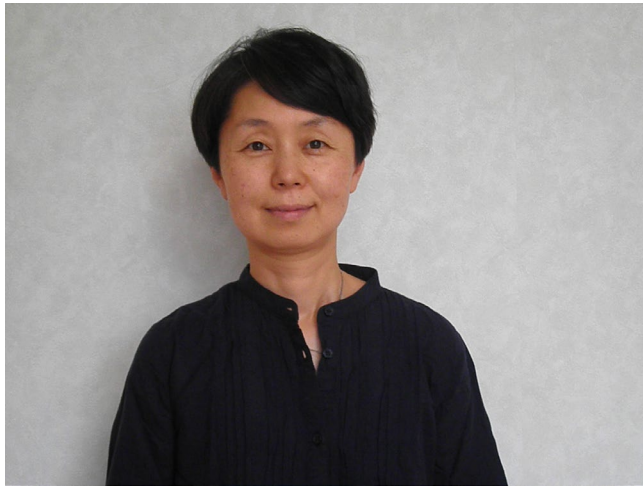
Syph.(梅毒ノゾーズ)6C

+Camph.(樟脳)6C

## 【家族の私への対処】

Arg-n.200C・・・気が動転したパニックに

→『お母さんを助けられるのは今は私しかいない』  
と呟きながらレメディーをとる。



怖くて  
足が震えて  
頭が真っ白

## 【その後の変化と経過】①

- ・「聞える？」と確認

→「うなづく」が言葉はでない。

- ・「右手をあげて」と話す

→最初、腕が上がらなかったが右手がハイイという手を拳げるように上げられる。手が握れなかったのが握り返せるようになる。

- ・「右足を動かして」と話す

→最初、動かなかった足が動くようになり自分で歩けるまでに回復する。

- ・言葉が全くでない話せない

→1時間後位に自分の名前と少しの言語は話せるようになる。



## 【その後の変化と経過】②

救急車と呼ぶまでの1時間、母が病院に行きたくないという気持ちに寄り添い説得しながら了承してもらった。その後は、コロナ禍でワクチン未接種者という事で病院に受け入れ拒否にあい自宅前の救急車の中で1時間近く待機。約2時間後に病院へ搬送。



脳梗塞は4時間未満に病院での処置を開始する事が後遺症の減少に繋がるため、なかなか病院へ搬送されないのが焦る。

## 【母の言葉】

救急車に歩いて自分で乗る前に「あなたが何度でも助けるから」と抱きしめて言ってくれたのが力になったと後に話していた。

→そして、レメディーをとった時に右足が何かもぞもぞとした感覚がし動くようになった。

# 【緊急相談】(2022年10月2日)

[ TBR : The Bonninghausen Repertoryで選択]

- 1 : 905# 身体の側面 - 右側
- 2 : 263# 腕 - 前腕
- 3 : 1079# ちくちく感(痺れのぴりぴり感) - 内側部分に
- 4 : 913# 卒中(脳溢血、脳梗塞、意識消失)
- 5 : 804# 知力 - 理解 - 困難な

順位	レメディー	出現回数	度数合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	Sabad.	5	9	3	2	1	1	2				
2	Aur.	5	8	1	1	1	3	2				
3	Phos.	5	7	1	1	3	1	1				

## 【選択理由】

- ①Sabad . (メランタケア) 6C・・・麻痺、変化した感覚
- ②Aur. (金) 6C・・・麻痺、痺れ
- ③Phos. (燐) 6C・・・麻痺、神経のサポートに
- ④Bell. (セイヨウハシリドコロ) 6C・・・話す事が難しい発話器官の麻痺に、目の瞳孔が開いている状況に
- ⑤Crot-h. (ガラガラヘビ) 6C・・・右側の麻痺に

※それぞれの砂糖玉をとれそうな時に一粒ずつとる。

## 【コロナ禍の入院】

救急病棟で入院3日目からレメディーをとる事が可能になる。

でもコロナ禍の入院でもあり、こっそりととってもらおう。

## 【入院中のリハビリ療法士の言葉】

→歩行訓練の時も手の麻痺のための作業のリハビリの時も

**「こんなに早く治る人は見た事がない」**

と言われる。

# 【結果と現在の様子】①

●緊急相談(2022年10月2日)後の変化  
入院中の変化

## ①理解力・話す事

・当初はメールの文章も2語文3語文だった

→少しずつ長いメールが書けるようになる。

・言葉の理解が緩慢だったり会話ができない状態

→7日目位からゆっくりと言葉を話す事と会話が出来ようになる。

・自分の言いたい言葉が出ない言い間違える

→最初が10だとすると5位まで減少。7日目位から改善する。

・文字を書く事はできなかった

→自分の名前を書けるようになり文字を書く練習をする。

## 【結果と現在の様子】②

### ②手足の麻痺

- ・手のつまむ等の細かい作業ができない  
→当初はできなかつた一円玉をひっくり返す事が7日目位一円玉をひっくり返す事が出来るようになる。コンビニで買い物をする事が出来る。
- ・足は力が入りずらかつた  
→階段の上り下りや普通速度で歩け、麻痺している右足を引きずることもなかつた。
- ・14日目には退院が決まりリハビリでの転院ができ転院先の病院も10日で退院出来た。

## 【結果と現在の様子】③

### ③現在2023年6月

- ・自分でリハビリを続け同年3月より車の運転を再開できるまでに回復。
- ・お料理も発症前と同じように出来るまで回復。
- ・現在も新たなレメディーを続けており、言葉が詰まることや言葉の言い間違いは劇的に改善。べらべらと親子で口喧嘩も出来るようになる。



## 【考察】

- ・緊急時に救急車が来るまでの間に基本のキットのレメディーや脳梗塞に関してケア出来るレメディーが手元にあった事が脳梗塞で脳が壊死していく速度を送らせられたと思う。
- ・脳梗塞の後遺症は、その後の人生を大きく左右するのでレメディーでの初期対応が功を奏したケースだった。
- ・自宅での緊急時の対応で、私は慌ててパニックになっており後で考えるとBell.をあげられるともう少し言葉がでないのは緩和されたのではないかと思った。またサポート血栓が発売される前だったので残念に思った。

## 【御礼】

最後に14年前に脳出血を発症した父の時の経験が今回の母のレメディーを導いてくれ、後遺症を最小限にしてくれた父に感謝する。